

科学研究費助成事業（科学研究費補助金）研究成果報告書

平成25年6月24日現在

機関番号：34511
 研究種目：基盤研究（C）
 研究期間：2010～2012
 課題番号：22520697
 研究課題名（和文） 畿内近国小藩領における大庄屋機能の研究—播州福本藩領鶴野金兵衛家の活動を中心に—
 研究課題名（英文） The Function of Ooshouya (a higher grade village headman) in a small feudal domain near metropolitan area.
 研究代表者
 今井 修平（IMAI SHUUHEI）
 神戸女子大学・文学部・教授
 研究者番号：00131540

研究成果の概要（和文）：近世播磨国の外様小大名、福本藩池田家領の大庄屋鶴野金兵衛家文書の目録作成と翻刻を行い、あわせて藩主池田家関係史料を収集・分析して、小規模な封建領主支配を支えた大庄屋の役割と機能を公と私の両面から解明した。すなわち福本池田家の家臣団編成や年貢収取に見られる小藩領としての特性と、それに対応した大庄屋の在り方や領域を超えた経済活動、さらには幕府の広域行政との関わり、さらには畿内近国の地域的特性の一端が明らかになった。

研究成果の概要（英文）：This analysed Fukumoto domain and community, transition of the vassals of the Fukumoto Ikeda family, and financial activities of the Uno family. Those are related to investigation of the ruling system in a small feudal domain in Harima province in early modern Japan.

交付決定額

（金額単位：円）

	直接経費	間接経費	合計
2010年度	1,300,000	390,000	1,690,000
2011年度	1,000,000	300,000	1,300,000
2012年度	500,000	150,000	650,000
年度			
年度			
総計	2,800,000	840,000	3,640,000

研究分野：人文学

科研費の分科・細目：史学・日本史

キーワード：近世史、地域史、大庄屋、播磨国、領主支配、小藩領、畿内近国、広域支配

1. 研究開始当初の背景

（1）日本近世において経済的先進地域として幕府の広域支配のもとに置かれていた摂津・河内・和泉・播磨のうち周辺に位置して大名領国と非領国の両方の要素を持つ播磨国の地域的特性の研究が不十分であった。

（2）中間支配機構としての大庄屋研究が進んでいるが、地域的類型や領主支配の個性に

応じた大庄屋の多様性追求が不十分であった。

（3）播磨地域の自治体史編さんは進んでいるが、その成果の学術的な集約がなされておらず、畿内近国としての播磨国の地域的特性が解明されておらず、日本近世史全体のなかでの位置付けが必要であった。

2. 研究の目的

播磨国の地域性の一つである、小藩領支配を個別、具体的にとりあげ、藩政史料や大庄屋文書の収集・整理・解説をすすめ、陣屋町や大庄屋機能を解明する。またこれまでの自治体史編纂の成果を集約して、姫路・赤穂・龍野など藩領や幕府領との比較も合わせて行い、播磨国全体の地域的特性を解明する。

3. 研究の方法

(1) 兵庫県神崎郡神河町教育委員会所蔵の鶴野金兵衛文書の全点を写真撮影し、撮影した文書を研究分担者全員でデジタル情報として共有し、各自の専門領域に応じて解説、研究をすすめた。

(2) 撮影した全点の鶴野金兵衛家文書を古文書読会能力に優れた数人のアルバイトスタッフが雇用し在宅で悉皆目録を作成し、かつ重要な文書は翻刻し、研究分担者で手分けして校閲したうえで、一部を刊行した。

- ・史料目録・史料翻刻の印刷・刊行
『播州福本領 鶴野金兵衛家文書目録Ⅰ』
(全97頁 2012年)
- ・『天保十五年御領分御用向諸日記』(全93頁 2013)

(3) 数回にわたり兵庫県神崎郡神河町に出張し、神河町教育委員会の協力を得て、福本藩領域であった神河町内の村々の自治会文書、寺院文書、隣接する市川町屋形地区の区有文書を調査した。また福本藩の飛び地領があった高砂市曾根村文書(高砂市史編さん室所蔵)や姫路藩領大庄屋三木家文書、姫路市立日本城郭研究センター所蔵の福本藩池田家関係史料を調査し、関連文書の写真撮影を行った。

(4) 兵庫県外では以下の研究機関に所蔵されている福本藩関係史料を調査し、必要な文書の写真撮影をおこなった。

- ①鳥取県立博物館
- ②鳥取市立博物館(やまびこ館)
- ③岡山大学図書館池田家文庫
- ④東京都、国立公文書館
- ⑤東京都、国立国文学資料館
- ⑥神奈川県逗子市立図書館

(5) 研究会の開催

年に3~4回、研究会を開き、各自の研究結果をレジュメと翻刻史料をもとに報告、討議し、その成果を順次、学会誌等に発表した。研究会の会場は以下の通りである。

- ①2010年4月13日 神戸女子大学三宮教育センター
- ②2010年5月25日 神戸女子大学三

宮教育センター

③2010年7月20日 神戸女子大学三宮教育センター

④2010年9月6日 神戸女子大学三宮教育センター

⑤2011年1月23日 鳥取市立博物館

⑥2011年2月13日 甲南大学日本史研究室

⑦4月18日 神戸女子大学三宮教育センター

⑧2011年5月31日 関西学院大学池内会館

⑨2011年11月17日 神戸女子大学三宮教育センター

⑩2012年5月22日 神戸女子大学三宮教育センター

⑪2012年10月9日 神戸女子大学三宮教育センター

⑫2013年3月26日 神戸女子大学三宮教育センター

(4) 神河町教育委員会との共催でシンポジウムを開催し、地域住民の地域史や史料保存について啓発活動を行うとともに、文書調査の協力を求めた。

① 2010年9月10日

「福本藩研究会シンポジウム」

場所 神河町公民館

内容

・講演 鎌谷かおる 「歴史史料の調査方法について」

・研究報告Ⅰ 村田路人 「大庄屋鶴野金兵衛『御領分御用向諸日記』に見る大坂町奉行所支配」

・研究報告Ⅱ 志村洋 「大割銀帳からみる福本領の支配機構」

・研究報告Ⅲ 東谷智 「福本藩の武家奉公人—給金の算用を中心に—」

② 2011年3月5日

「神河町歴史シンポジウム」

場所 神河町公民館

・調査報告 竹国よしみ 「神河町の歴史史料調査について」

・研究報告Ⅰ 郡山志保 「明治4年の福本藩家臣団と由緒書」

・研究報告Ⅱ 志村洋 「幕末動乱期における屋形池田家の知行所支配と民衆」

・研究報告Ⅲ 東谷智 「旧藩主家池田徳潤の海外視察」

4. 研究成果

幕藩体制成立期には播磨一国52万石を領有する外様大藩として成立した姫路藩が幕藩制確立後に15万石の譜代中規模藩となり、播磨全体は非領國的な所領配置となったことは周知されていたが、奥播磨と西播磨に多く散在する1万石規模の小藩領の実態は不明であった。その個別事例として福本藩池田家領の大庄屋機能を分析する過程で、当該地域の領主支配の特質と小藩領に固有の大庄屋機能の特質を以下の通り解明することができた。

(1) 福本藩池田家領の成立過程とその後の変遷から、当該地域が姫路藩池田家、鳥取藩池田家の飛び地支配、福本藩池田家と変遷し、福本池田家から屋形池田家・吉富池田家が分立したあとも領域的な纏まりが維持され、家臣団と大庄屋により直接的な支配が維持されたことが判明した。

(2) 福本領の年貢免状と岡山藩池田家の年貢免状との比較検討の結果、池田家として共通する支配方式が維持されていることが判明した。

(3) 家臣の分限帳と由緒書の分析から、家臣団編成では、藩祖池田政直が鳥取から引き連れてきた家柄と、福本入封時に召抱えた家柄、中期以降に新規に召抱えた家臣が併存することが判明した。

(4) 「御領分大割御奉公人銀割覚帳」、「御領分御用向諸日記」の分析から夫役人足徴発と地域的諸入用が大庄屋の算用で賄われているなど藩との関わりが密接で家中役人との距離が近いことなど、大藩とも幕領とも異なる大庄屋の役割が明確となった。また大庄屋が豪商でもあることから年貢米売却や藩札発行など財政運用との関わりも断片的ながらみえてきた。

(5) 鶴野金兵衛家の金銀証文の分析からは金融活動の対象が大部分が藩領内ではあるが、神東・神西両郡の藩領域外にも及んでおり領域経済を超えた市川流域経済圏が形成されていた可能性を見出すことができた。

(6) 本家福本池田家領の大庄屋は分家吉富池田家領も併せて管轄しているが、屋形池田家領には別の大庄屋が存在していたことも判明した。しかし領民の日常生活（金融や通婚圏など）では地域的一体性は保たれており、また明治維新に際して藩が復活した際には福本藩に一元化しており、領域的纏まりは維持されていた、と判断できる。

(7) 屋形池田家領は生野銀山街道の宿駅的機能を有するため、幕府役人と関わる史料が確認できるが、分析は今後の課題である。なお国文学資料館所蔵「旗本池田家文書」の分析からは大庄屋の職務として判明したのは、①村々からの願書の取り次ぎ、②公儀触の持参、③村々からの御山方への届けの取り次ぎ、④宗目人別増減届の差出、⑤寺社印形届の取り次ぎ、⑥知行所村々からの人足徴発、⑦御用談への陪席、⑧吟味筋への陪席、であることも判明した。

(8) 弘化2年の「御用葺萱割符帳」の分析からは、福本領の租税体系のなかに屋根葺に用いる萱の貢納があり、その負担内容は「御用」分と個々の家臣分、各寺分、大庄屋分に分かれてそれぞれ担当村が指定されている。現物納の小物成に類似するが、すでに代銀納化されて村高の応じた高割が適用されていて、財政窮乏の家臣救済策の可能性が想定される。この取り纏めが大庄屋の職務になっていることも注目される。

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文] (計4件)

(1) 東谷智「播磨国福本藩における免定の成立について一文書様式の観点から」
『甲南大学紀要』163号 16～19頁 2013年、査読有)

(2) 今井修平「播州福本領の成立と地域社会」
『神女大史学』28号 124～134頁 2011年、査読有)

(3) 郡山志保「播磨国福本池田家における家臣団の変遷」
『神女大史学』28号 135～170頁 2011年、査読有)

(4) 鎌谷かおる「大庄屋鶴野金兵衛家の金融活動と地域社会」
『神女大史学』28号 171～191頁 2011年、査読有)

6. 研究組織

(1) 研究代表者

今井 修平 (IMAI SHUUHEI)

神戸女子大学・文学部・教授

研究者番号：00131540

(2) 研究分担者

志村 洋 (SHIMURU HIROSI)

関西学院大学・文学部・教授

研究者番号：90272434

鎌谷 かおる (KAMATANI KAORU)

神戸女子大学・文学部・講師

研究者番号：20532899

東谷 智 (HIGASHITANI SATOSI)

甲南大学・文学部・教授

研究者番号：10434911

村田 路人 (MURATA MITIHITO)

大阪大学・大学院文学研究科・教授

研究者番号：40144414

(研究協力者)

郡山 志保 (KOORIYAMA SIHO)

行吉学園資料室調査員

竹国 よしみ (TAKEKUNI YOSIMI)

神河町教育委員会職員